



03

奉仕

BASE Is Biblical And Solid Essentials
MINISTRY

Introduction

序論

神の子は、
神の使命を成就するために
神のしもべとなられた。

-John Oswald Sanders

**神のご目的を
成し遂げる
奉仕者とされたい**

AGENDA

01
02
03
04

- 奉仕の意義**
- 奉仕者の資質**
- 奉仕の秩序**
- 奉仕の報い**

Chapter 1

奉仕の意義

Section 1-1

神のご計画の中の 奉仕

私は
神のご計画のすべてを、
余すところなく
あなたがたに知らせたからです。

使徒 20:27

御国を宣べ伝えて
あなたがたの間を
巡回した私

使徒 20:25

また私は、
新しい天と新しい地を見た。
以前の天と以前の地は過ぎ去り、
もはや海もない。
私はまた、聖なる都、
新しいエルサレムが、
夫のために飾られた
花嫁のように整えられて、
神のみもとから、
天から降って来るのを見た。

黙示録 21:1-3

私はまた、
大きな声が御座から出て、
こう言うのを聞いた。
「見よ、
神の幕屋が人々とともににある。
神は人々とともに
住み、人々は神の民となる。
神ご自身が彼らの神として、
ともにおられる。」

黙示録 21:1-3

神のご計画

御国の実現

ソロモン三部作

箴言

伝道者の書

雅歌

**神の知恵に
信頼する**

**神の知恵に
信頼する**



**自分の知恵で
判断する**

今、知恵と知識を
私に授けてください。

II歴代誌 1:10

箴言

神の知恵によって
どのように生きるか

伝道者の書

神の知恵によって
生きるしかない

雅歌

神の知恵と
一つになる望み

**神の知恵に
信頼する**

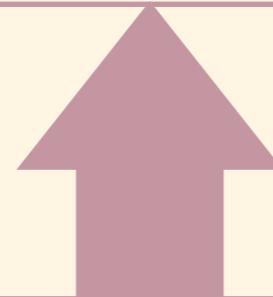
神のご計画

御国の実現

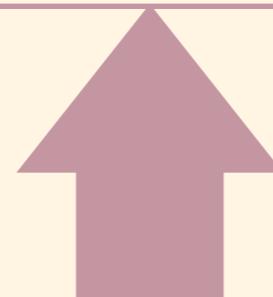
timeline

歴史のゴール

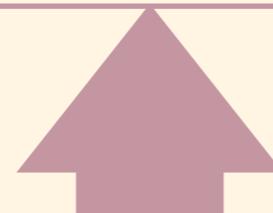
御国の実現



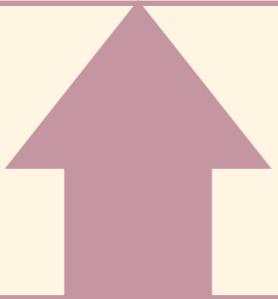
新天新地



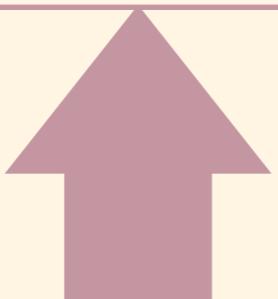
大いなる白い御座のさばき



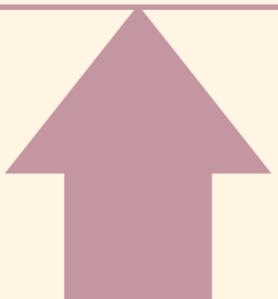
千年王国



患難時代



携手



兄弟姉妹の成長

教会の完成



Section 1-2

第1章のまとめ

あらゆる奉仕は
世界の完成に
つながっている

Chapter 2

奉仕者の資質

Section 2-1

民数記に見る 奉仕者の資質

創世記

失敗した人

出エジプト記

回復された人

レビ記

礼拝する人

民数記

奉仕する人

Section 2-2

奉仕の本質

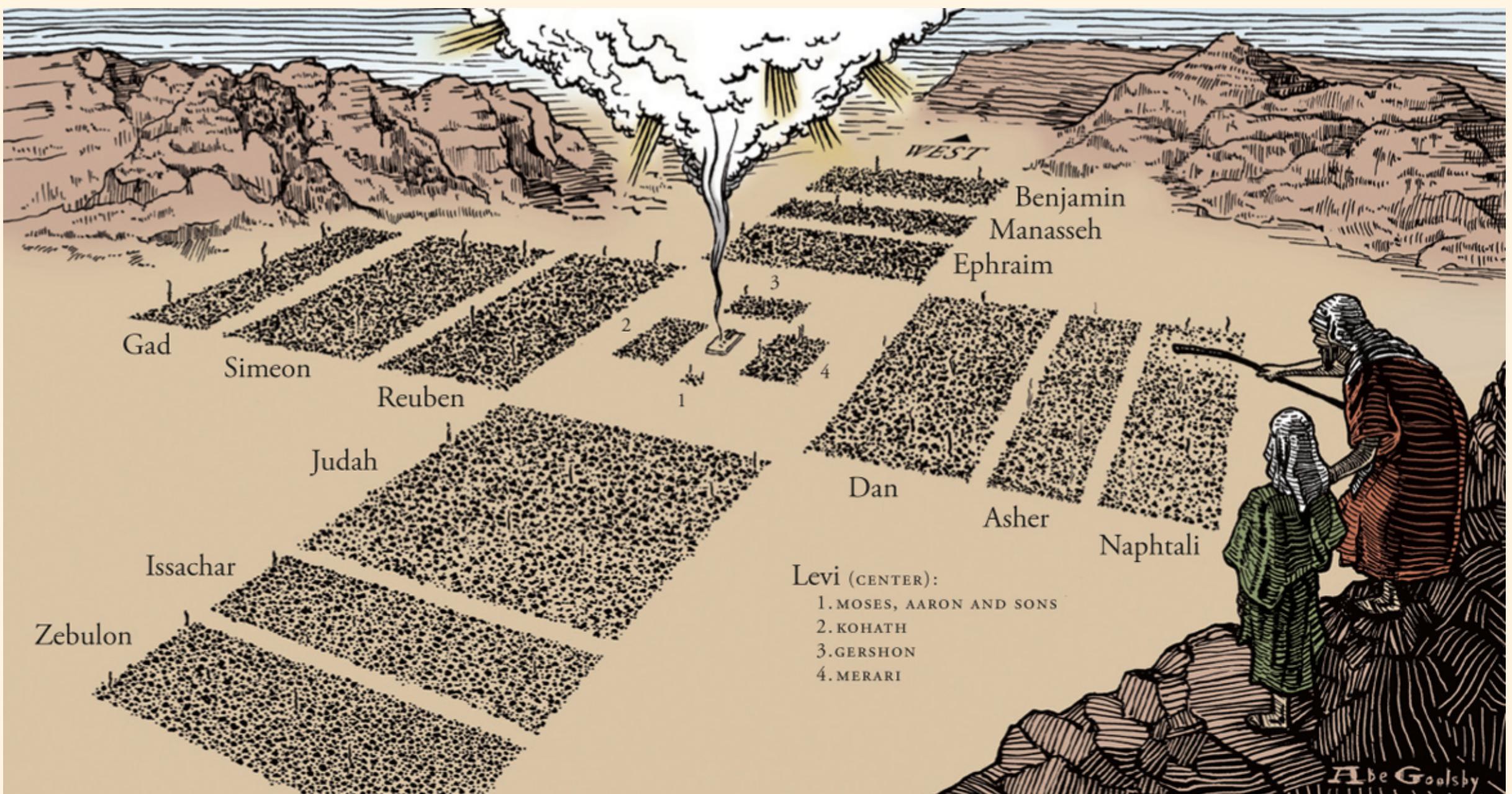
人口調査

1

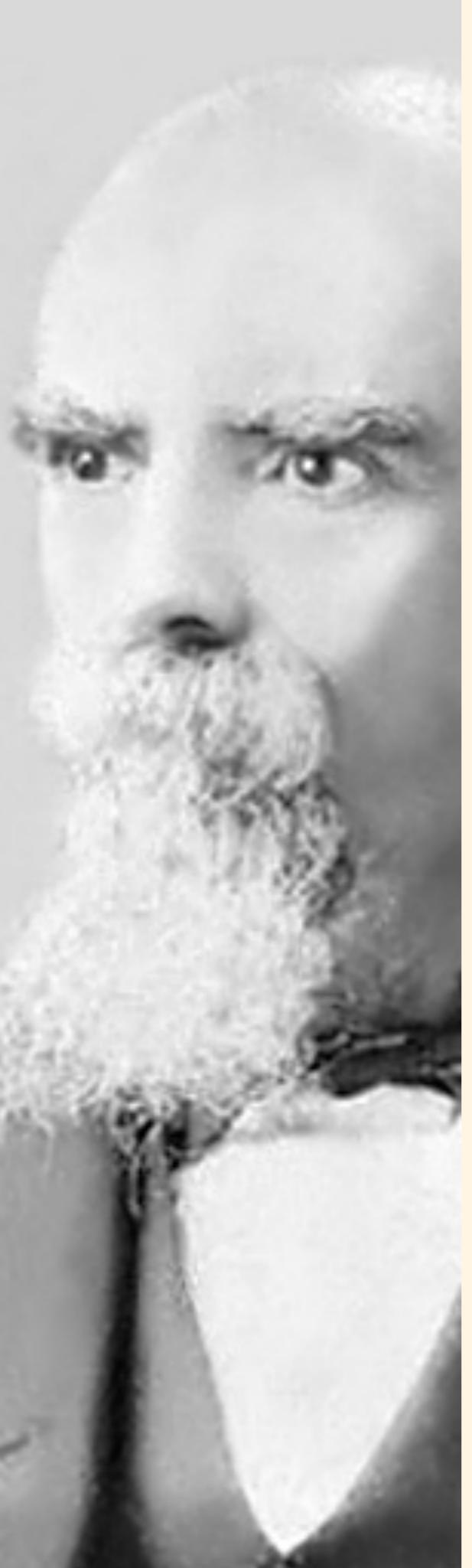
兵士の人数調査

2

レビ人の人数調査



戦う力の中心は
主への礼拝



“

自分の品性を通して、
キリストを存分に現し、
キリストの御名のために
全世界に強烈な影響を
与えた人は、
その人の生涯は
それ以外なかった
と言えるほど、
非常に多くの時間を
神と過ごした人である。
神と過ごす時間が
わずかな人は、
神のためになすことも
わずかである。

-Edward McKendree Bounds

Section 2-3

奉仕に進むために

民数記 5章

1

汚れた人の隔離

2

罪過のための賠償

3

妻の潔白の証明



汚れた人の隔離



神との関係の健全化

罪過のための賠償

同胞との関係の健全化



妻の潔白の証明



家族との関係の健全化

Section 2-4

献身者の心

「イスラエルの子らに告げよ。
男または女が、
主のものとして身を聖別するため
特別な誓いをして、
ナジル人の誓願を立てる場合、



ぶどうを絶つ



その人は、
ぶどう酒や強い酒を断たなければならぬ。
ぶどう酒の酢や強い酒の酢を
飲んではならない。
また、ぶどう汁をいっさい飲んではならない。
ぶどうの実の生のものも、
干したものも食べてはならない。
ナジル人としての聖別の全期間、
彼はぶどうの木から生じるものは
すべて、種も皮も食べてはならない。

聖歌598番

“

かつては我 良きものを
求めて主を 忘れたり
賜物より 癒しより
与え主ぞ さらに良き
我がすべての すべてなる
主をば崇めん とこしなえに

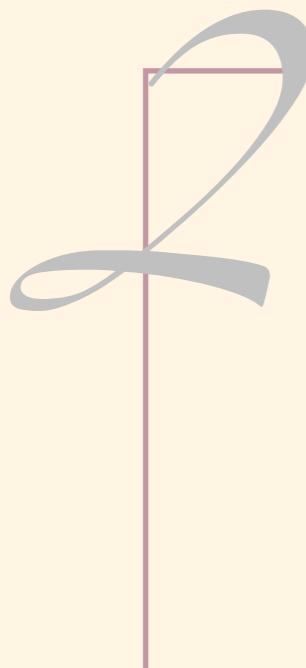
-聖歌598番 「かつてはわれ」



“

以前は祝福、今は主
以前は感情、今はみことば
以前は主の賜物を求めぬ
今は与え主をわがものとす
以前は癒しを求めぬ
今は主だけを求む
すべてにまさりとこしえに
われはイエスを歌わん
すべてはイエスにあり
そして、イエスはすべてなり

-Albert Benjamin Simpson

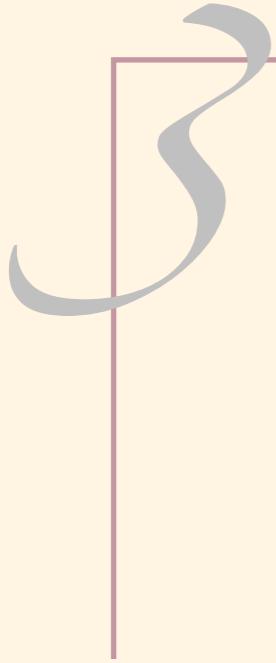


髪の毛を切らない

彼がナジル人としての聖別の誓願を
立てている間は、
頭にかみそりを当ててはならない。
主のものとして
身を聖別している期間が満ちるまで、
彼は聖なるものであり、
頭の髪の毛を
伸ばしておかなければならぬ。

彼の頭には
神への聖別のしるしが
あるからである。

民数記 6:7



死体から
遠ざかった

主のものとして身を聖別している間は、
死人のところに入って行つてはならない。
父、母、兄弟、姉妹が死んだ場合でも、
彼らとの関わりで
身を汚してはならない。

主のものとして
身を聖別している間は、
死人のところに
入って行ってはならない。

民数記 6:6

Section 2-5

第2章のまとめ

**奉仕する力の
中心は
主への喜び**

**奉仕のためには
関係の健全化が必要**

献身への
自発的な意志が
奉仕には必要

奉仕者は
祝福よりも
与え主を喜ぶ

奉仕者は
神との交わりを
喜ぶ

奉仕者は
神との親しさを
喜ぶ

Chapter 3

奉仕の秩序

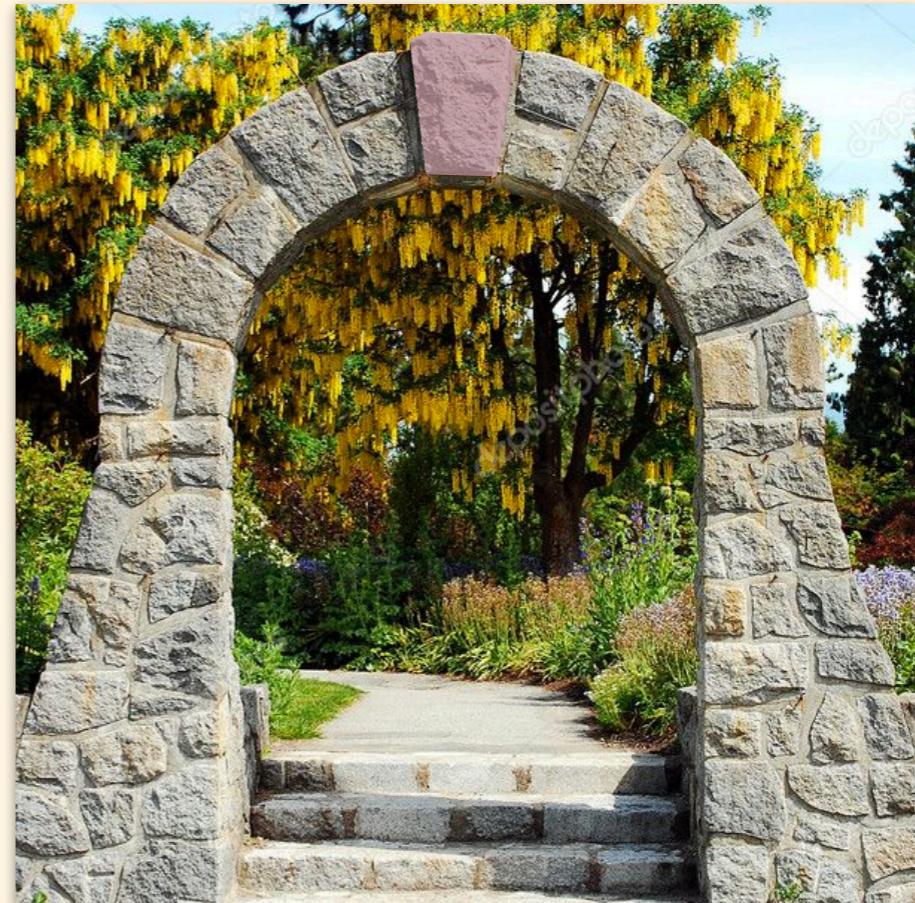
Section 3-1

集会成長の要

使徒たちや預言者たちという
土台の上に建てられていて、
キリスト・イエスご自身が
その要の石です。
このキリストにあって、
建物の全体が組み合わされて成長し、
主にある聖なる宮となります。
あなたがたも、
このキリストにあって、
ともに築き上げられ、
御靈によって神の御住まいと
なるのです。



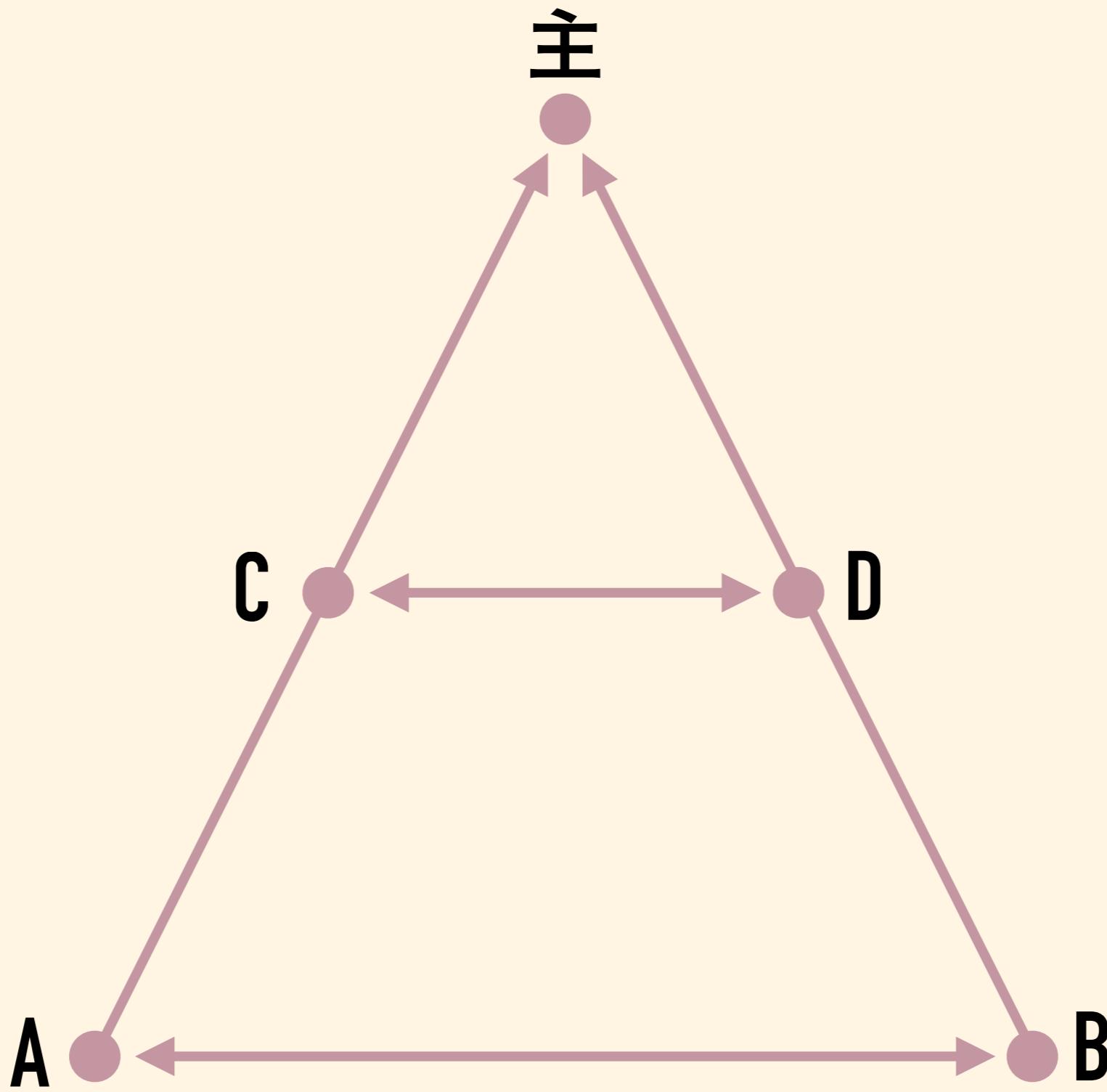
隅の石



かしら石

私たちはみな、
神の御子に対する
信仰と知識において
一つとなり、
一人の成熟した大人となって、
キリストの満ち満ちた
身丈にまで達するのです。

主にある群れの一致



集会成長の要は
主にあって
行動する意識

Section 3-2

集会成長の土台

使徒たちや預言者たちという
土台の上に建てられていて、

集会成長の土台は
みことば

Section 3-3

集会成長のための 役割

こうして、
キリストご自身が、
ある人たちを使徒、
ある人たちを預言者、
ある人たちを伝道者、
ある人たちを牧師、
また教師として
お立てになりました。
それは、聖徒たちを整えて
奉仕の働きをさせ、
キリストのからだを
建て上げるためです。

ある人たちを使徒、
ある人たちを預言者、
ある人たちを伝道者、
ある人たちを牧師、
また教師として
お立てになりました。

私（パウロ）が植えて、
アポロが水を注ぎました。
しかし、成長させたのは神です。

Section 3-4

**奉仕は「皆の益」
を考えて**

さて、賜物はいろいろありますが、
与える方は同じ御靈です。
奉仕はいろいろありますが、
仕える相手は同じ主です。
働きはいろいろありますが、
同じ神がすべての人の中で、
すべての働きをなさいます。
皆の益となるために、
一人ひとりに御靈の現れが
与えられているのです。

たとえ私が人の異言や
御使いの異言で話しても、
愛がなければ、
騒がしいどらや、
うるさいシンバルと同じです。
たとえ私が
預言の賜物を持ち、
あらゆる奥義とあらゆる知識に
通じていても、
たとえ山を動かすほどの
完全な信仰を持っていても、
愛がないなら、
私は無に等しいのです。

1コリント 13:1-3

たとえ私が持っている物の
すべてを分け与えても、
たとえ私のからだを
引き渡して誇ることになっても、
愛がなければ、
何の役にも立ちません。

愛は人を育てます。

1コリント 8:1

ただ、
すべてのことを適切に、
秩序正しく行いなさい。

1コリント 14:40

愛の指摘で
あっても適切に
秩序正しく

Section 3-5

奉仕とは

主にあって

みことばに
基づき

**2つの分野の
表れを求めて**

**皆の益と
なるために**

Section 3-6

第3章のまとめ

奉仕者は
主に結びつく
必要がある

奉仕者は
みことばの土台を
築く必要がある

植える働きと
水を注ぐ働きの
連携が
集会成長に必要

集会全体の
益となる視点の
奉仕が
集会成長に必要

Chapter 4

奉仕の報い

Section 4-1

奉仕の決算

私たちはみな、
善であれ悪であれ、
それぞれ肉体においてした
行いに応じて
報いを受けるために、
キリストのさばきの座の前に
現れなければならないのです。

キリストの さばきの座

Section 4-2

奉仕の評価基準

天の御国は、
旅に出るにあたり、
自分のしもべたちを呼んで
財産を預ける人のようです。
彼はそれぞれその能力に応じて、
一人には五タラント、
一人には二タラント、
もう一人には一タラントを渡して
旅に出かけた。

マタイ 25:14-19

するとすぐに、
五タラント預かった者は出ていって、
それで商売をし、
ほかに五タラントをもうけた。
同じように、
二タラント預かった者も
ほかに二タラントをもうけた。
一方、一タラント預かった者は
出て行って地面に穴を掘り、
主人の金を隠した。

さて、かなり時がたってから、
しもべたちの主人が帰ってきて
彼らと清算をした。

マタイ 25:14-19

**任せられた責任は
人それぞれ**

すると、
五タラント預かった者が進み出て、
もう五タラントを差し出して言った。

(中略)

主人は彼に言った。

『よくやった。

良い忠実なしもべだ。
おまえはわずかな物に
忠実だったから、
多くの物を任せよう。
主人の喜びを
ともに喜んでくれ。』

二タラントの者も進み出て言った。

(中略)

主人は彼に言った。

『よくやった。

良い忠実なしもべだ。

おまえはわずかな物に

忠実だったから、

多くの物を任せよう。

主人の喜びを

ともに喜んでくれ。』

忠実

一タラント預かった者も
進み出て言った。
『ご主人様。
あなた様は蒔かなかつた
ところからかき集める、
厳しい方だと分かっていました。』

主との関係が
忠実さに
影響する

Section 4-3

**報いは永遠の姿に
影響する**



5つの冠





ディアデーマ
(王冠)



ステファノス
(栄冠)

5つの冠

- 1 朽ちない冠
- 2 喜びの冠
- 3 義の冠
- 4 いのちの冠
- 5 栄光の冠

競技をする人は、
あらゆることについて節制します。
彼らは朽ちる冠を受けるために
そうするのですが、
私たちは朽ちない冠を
受けるためにそうするのです。

**目標を定めて
自制した人**

ですから、
私は目標がはっきりしないような
走り方はしません。
空を打つような拳闘もしません。

5つの冠

- 1 朽ちない冠
- 2 喜びの冠
- 3 義の冠
- 4 いのちの冠
- 5 栄光の冠

私たちの主イエスが
再び来られるとき、
御前で私たちの望み、
喜び、誇りの冠と
なるのは、
いったいだれでしょうか。
あなたがたでは
ありませんか。

伝道と 弟子訓練をした人

5つの冠

- 1 朽ちない冠
- 2 喜びの冠
- 3 義の冠
- 4 いのちの冠
- 5 栄光の冠

あとは、
義の栄冠が私のために
用意されているだけです。
その日には、
正しいさばき主である主が、
それを私に授けてくださいます。
私だけでなく、
主の現れを慕い求めている人には、
だれにでも授けてくださるのです。

**携挙を
待ち望んでいる人**

キリストにこの望みを
置いている者はみな、
キリストが
清い方であるように、
自分を清くします。

あなたがたはわたしが
空腹であったときに食べ物を与え、
渴いていたときに飲ませ、
旅人であったときに宿を貸し、
わたしが裸のときに服を着せ、
病気をしたときに見舞い、
牢にいたときに訪ねてくれたからです。』
すると、
その正しい人たちは答えます。

マタイ 25:35-40

『主よ。いつ私たちは
あなたが空腹なのを見て食べさせ、
渴いているのを見て飲ませて
差し上げたでしょうか。
いつ、旅人であるのを見て宿を貸し、
裸なのを見て
着せて差し上げたでしょうか。
いつ私たちは、あなたが病気をしたり
牢におられたりするのを見て、
お訪ねしたでしょうか。』
すると、
王は彼らに答えます。

『まことに、
あなたがたに言います。
あなたがたが、
これらのわたしの兄弟たち、
それも最も小さい者たちの一人に
したことは、
わたしにしたのです。』

マタイ 25:35-40

すると、
王は彼らに答えます。
『まことに、
おまえたちに言う。
おまえたちがこの最も小さい者たちの
一人にしなかったのは、
わたしにしなかったのだ。』

5つの冠

- 1 朽ちない冠
- 2 喜びの冠
- 3 義の冠
- 4 いのちの冠
- 5 栄光の冠

試練に耐える人は幸いです。
耐え抜いた人は、
神を愛する者たちに約束された、
いのちの冠を受けるからです。

ヤコブ 1:12

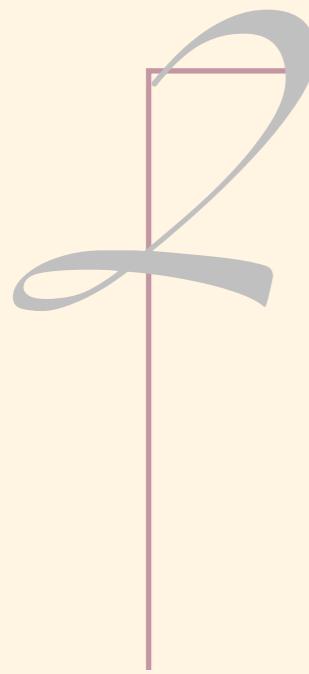
試練を通して
主を学んだ人

5つの冠

- 1 朽ちない冠
- 2 喜びの冠
- 3 義の冠
- 4 いのちの冠
- 5 栄光の冠

割り当てられている人たちを
支配するのではなく、
むしろ群れの模範となりなさい。
そうすれば、
大牧者が現れるときに、
あなたがたは、
しほむことのない
栄光の冠をいただくことになります。

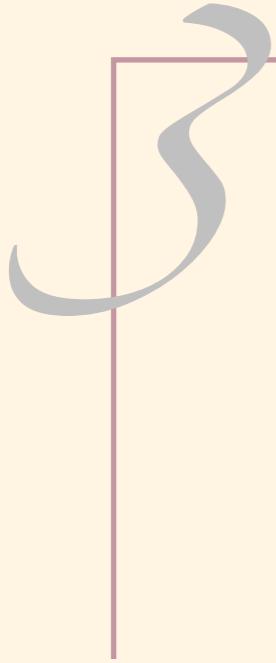
**牧者の働きを
した人**



永遠の世界での 仕事

彼らは世々限りなく
王として治める。

黙示録 22:5



輝くきよい亜麻布

花嫁は、
輝くきよい亜麻布を
まとうことが許された。
その亜麻布とは、
聖徒たちの正しい行いである。

黙示録 19:8



“

私たちは日を追うごとに、
永遠のホームで
やがて受ける報いと、
喜び楽しむ度合いを
自ら決定しつつあるのです。
その決定の要因には、
聖書をどれだけ知っているか、
また、それに従順であるか、
祈りの生活はどうか、
神の民との交わりはどうか、
主への奉仕はどうか、



“

神がゆだねてくださった
すべてのものを忠実に
管理しているか、
ということが
含まれることでしょう。

-William Macdonald

Section 4-4

奉仕者の特権

これはナジル人についてのおしえである。
ナジル人としての聖別の期間が満ちたときは、
彼を会見の天幕の入り口に連れて行く。
彼は次のささげ物を主に献げる。
すなわち、全焼のささげ物
(中略)
罪のきよめのささげ物
(中略)
交わりのいけにえ
(中略)
さらに穀物のささげ物

穀物のささげ物

人として完全に
自分をささげられた主

交わりのいけにえ

神と人の間に交わりの
喜びをもたらす主

罪のきよめのささげ物

人の罪をきよめるために
自分をささげられた主

全焼のささげ物

自分の全てを
ささげられた主

Section 4-5

第4章のまとめ

奉仕が
評価される時が
来る

**奉仕の
評価基準は
主の価値観**

**奉仕には
報いがある**

**奉仕することで
学ぶ主がある**

Whole Summary

全体まとめ

Summary Of Introduction

序論のまとめ

神のご目的に
沿った
奉仕者でありたい

Chapter 1 Summary

第1章 奉仕の意義 のまとめ

**奉仕には
壮大な意義がある**

Chapter 2 Summary

第2章 奉仕者の資質 のまとめ

**奉仕者の資質は
主を喜ぶ
人であること**

Chapter 3 Summary

第3章 奉仕の秩序 のまとめ

集会成長に
つながる奉仕かを
吟味する
必要がある

Chapter 4 Summary

第4章 奉仕の報い のまとめ

**奉仕は
永遠の姿に
影響する**

EOF

- 参考資料

ルイス・スペリー・シェイファー『聖書の主要教理』聖書図書刊行会、1985年
高木慶太・芦田拓也『これからの世界情勢と聖書の預言』いのちのことば社、2002年
R・A・ファーレル『集会の真理と行動』伝道出版社、1975年
ウィリアム・マクドナルド『この日を主とともに』ゴスペルフォリオプレスジャパン、2014年
ウィリアム・マクドナルド『新約聖書注解2』伝道出版社、2006年
ヘンリー・W・ソルト『幕屋～祭司と捧げ物～』牧草社、2004年

- 改版履歴

2015年4月 初版
2016年3月 改版
2016年8月 改版
2018年5月 改版
2019年9月 改版
2019年11月 改版
2019年12月 改版
2020年1月 改版
2020年2月 改版
2020年3月 改版
2020年4月 改版
2020年9月 改版
2020年10月 改版
